

関東森林管理局入札等監視委員会審議概要

(Webサイト掲載日:平成30年8月14日)

開催日及び場所		平成30年6月22日(金) 関東森林管理局 2階小会議室				
委員		橋爪 健(弁護士(委員長)) 金井 孝純(公認会計士) 田島 聡子(ジャーナリスト)				
審議対象期間		平成30年1月1日～3月31日				
審議対象案件		131件	うち、1者応札案件	30件		
			契約の相手方が公益社団法人等の案件	0件		
抽出案件		6件	うち、1者応札案件	2件		
		(抽出率 4.6%)	(抽出率 6.7%)			
			契約の相手方が公益社団法人等の案件	0件		
			(抽出率 0.0%)	0件		
抽出案件内訳	工事	一般競争	2件	うち 1者応札	0件	
				契約の相手方が公益社団法人等の案件	0件	
		指名競争	該当なし			
		工事希望型競争	該当なし			
		その他の指名競争	該当なし			
		随意契約	0件			
	業務	一般競争	1件	うち、1者応札案件	1件	
				契約の相手方が公益社団法人等の案件	0件	
		指名競争	該当なし			
			簡易公募型競争	該当なし		
			その他の指名競争	該当なし		
		随意契約	該当なし			
			標準型プロポーザル	該当なし		
		簡易公募型プロポーザル	該当なし			
		標準型プロポーザル	該当なし			
		その他の随意契約	0件			
物品・役務等	一般競争	3件	うち、1者応札案件	1件		
			契約の相手方が公益社団法人等の案件	0件		
	指名競争	該当なし				
	随意契約(企画競争・公募)	該当なし				
	随意契約(その他)	0件				
(特記事項) 高落札率案件を抽出して審議						
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問			回答等		
	○関東局競争参加資格とは、どのようなものか。また、付与された業者の等級は、業者自体は知り得るのか。			○入札参加を希望する業者から資格申請の書類を提出してもらい、審査を行い、基準を満たす者にA～Dランクを付与し入札参加を認めている。付与した等級は、業者に通知している。		
	○付与された等級以外の入札には参加できないのか。			○参加資格条件の等級に示されている範囲内であれば参加できる。		
	○(A033) 予定価格の算出はどのようにするのか。			○公共事業の場合は、公表されている資材価格や歩掛を使用し、積み上げて積算している。		
	○入札調書の「標準点」とはなにか。			○建設工事の場合、競争参加資格申請のあった事業者の提出書類を審査の結果、参加要件を満たしていれば標準点として100点を付与する仕組みである。		
○(A033) 実質競争者数1とはどういうことか。			○予定価格の範囲内の金額を提示した者が1者のみであったということである。			

<p>委員からの意見・質問、それに対する回答等</p>	<p>○(A033)復旧治山工事は4者のみの参入であるが、技術的に難しいものなのか。</p> <p>○(B008)再度入札4回で落札されているが、入札は何回まで実施するのか。</p> <p>○(B008)不動産売却の入札では、一般的に、入札参加者がいない場合は、予定価格を見直すこともあるが、そのあたりはどうか。</p> <p>○加算点算出表の地域への貢献は自己申告なのか。</p> <p>○入札を辞退した後、再度入札に参加することはできるのか。</p> <p>○工事や業務など、発注内容で等級の規模が違うのか。</p> <p>○(D001)設計コンサルタント業務でいう各種単価とはなにか。</p> <p>○工事は平均落札率が95%後半となっている一方で、設計コンサルタント業務は80%程度となっているが、何か原因はあるのか。</p> <p>○(N007)再度入札の際に辞退した者には、初回入札時の入札額を教えているのか。</p> <p>○福島県内は、復興事業などの公共工事が多数発注されているため、業者としては条件の良い案件のみを受注するといった流れが発生しているのか。</p> <p>○(O008)一貫作業を実施できる業者は増えてきているのか。</p> <p>○(O008)予定価格が1円単位で設定されているが、どこかの単位で丸めるものではないのか。</p> <p>○造林・生産事業の発注基準も工事、設計コンサルタントなどと違う基準で実施しているのか。</p> <p>○今回の審議対象は年度末の期間の案件であるが、やはり年度末は落札率が高くなる傾向なのか。</p>	<p>○治山事業は山間地域で行う工事が多く、地理的状況等から入札への参入希望者が今回程度であるのが現状。</p> <p>○基本的には2回としているが、本件は入札参加希望者が少なく初回入札が不調となり、再度の公告であったことも加味し、4度の入札を実施した。</p> <p>○発注事業内容によっては、実施内容や規模等を変更し入札へ参入しやすい構成にすることもある。 本件は、前年度の入札不調を受け、予算の繰越承認を経て発注しているため、実施内容等の変更はせず、予定価格も見直していない。</p> <p>○市町村や団体が発行する証明書を提出してもらい確認している。</p> <p>○一度辞退すると参加できない規定になっている。</p> <p>○発注金額の規模で等級を設定する。</p> <p>○各種調査の具体的な作業内容ごとに、関東森林管理局等が公表している単価を用い、積算している。</p> <p>○工事に比べ設計コンサルタント業務は入札者数が多いことで競争が働いていると考える。 また、入札価格の主な構成として、工事は建設物に使用する資材価格と労務費がある一方、設計コンサルタント業務は技術者の労務費が主を占めており、それぞれ構成内容が異なっているため、工事と設計コンサルタント業務の平均落札率に差が生まれていると考える。</p> <p>○本件は電子入札で実施しており、初回入札が不落の場合、初回入札で提示された最低金額を入札参加者にお知らせしている。</p> <p>○条件の良い案件のみを受注する流れがあったかどうかは判断できないが、実際に1～2年前は入札参加の希望者が少ない時期があったが、現状では安定してきている。</p> <p>○一貫作業は、立木伐採から造林作業まで連続して行い低コスト化を図るため、近年推進している発注形態であり、対応できる業者は地域によってばらつきはあるが、新規参入者を期待しているところである。</p> <p>○素材生産の予定価格は、通知上1円単位で設定することになっているため1円単位としている。</p> <p>○工事や設計コンサルタントについては、森林管理局からの資格付与となっているが、造林素材生産事業については、総務省が窓口となっている全省庁統一資格によって資格を付与しており、発注規模に対するランクは林野庁が定めている。</p> <p>○年度末は、入札に参加する業者が少なくなる傾向にあるため、結果的に落札率が高くなっている可能性もあるが、この時期は、翌年度から事業を開始する繰越し案件もあり、年度末であるから落札率が高くなるとは一概に言えない。</p>
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>特になし</p>	

関東森林管理局入札等監視委員会苦情処理会議審議概要

開催日及び場所	平成30年6月22日（金） 関東森林管理局2階小会議室			
委員	橋爪 健（委員長・弁護士） 金井孝純（公認会計士） 田島聡子（ジャーナリスト）			
再苦情申立概要	申立日	件名	契約方式	契約月日
	H . .			H . .
	内容等 該当なし			
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答	
委員会による意見の具申又は勧告の内容				